

2010年度

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学 FD 委員会

# 目 次

1. 学生による授業評価アンケート結果について（総評）	1
2. 結果の分析	
基礎共通	6
音楽学部	8
人文学部	10
人間発達学部	12
3. 資料	14

## 学生による授業評価アンケート結果について（総評）

新方式による本格的な授業評価アンケートを2009年度に実施し、その結果を昨春に大部な冊子としてまとめるとともに、ポータルサイトに載せて学内での閲覧が可能な状態で公表しました。昨年度は本格実施ということもあり、すべての教員の全科目を対象とする大がかりなものでした。このため冊子は550ページを超す大部なものとなりました。今年度のアンケート実施にあたっては、効率的な運用を目指して、全教員を対象とするものの、各教員の担当する科目の中で受講者数の一番多いクラス1科目としました。また、実施時期に関して、昨年度は早すぎたという意見が聞かれましたので、講義・演習については前期末、音楽のレッスンに関しては、通年科目であることを考慮して、後期の半ばにアンケートを実施しました。アンケート結果で5名以上の回答のあったものについては従来通り担当者にお返しするとともに、結果に対するコメントをお願いしました。ご協力ありがとうございました。

平行してFD委員会において結果の分析・検討をおこないました。結果分析に際しては、昨年同様に「グループ平均」を用いて、今年度の評価結果の特徴がどのように表れているかを見るとともに、昨年度の結果との比較の視点を取り入れました。昨年度は全科目、今年度は1科目ということで、厳密に言えば正確な比較とは言えませんが、特徴的な傾向は読み取れるのではないのかと思われます。その結果は次ページ以降の学部・部門別の分析をご覧いただきたいと思ひます。数字の上では大きな変化はありませんが、多少の改善が進んでいることがうかがえます。個々の先生がアンケート結果を真摯に受け止めて、改善の工夫をさせていただいている成果かと思われます。

なお、今年度はピア・レビューとして授業公開・見学も実施しました。授業評価、授業公開、FD研修会などの地道な研鑽の積み重ねが本学の教育の評価を高めていくことになると思われますので、諸先生のご理解・ご協力に感謝するとともに、今後もいっそうのご協力をお願いいたします。

2011年3月20日

相愛大学FD委員会 委員長 山下 昇  
中村圭爾  
川中美津子  
米田哲二  
石川玲子  
前田昭子  
吉野和夫  
左官雅範  
久須美裕治

# 授業についてのアンケート

相愛大学は、授業の改善のために授業評価アンケートを実施します。アンケートは授業の改善のためだけに利用されます。率直な回答をお願いします。

学年と学部・学科は○で囲んでください。学科(音楽・人文・人間発達)、科目名、教員名は記入してください。

学年 1年          2年          3年          4年          その他

学部 1. 音楽      2. 人文      3. 人間発達 4. その他

学科 1. 音楽      2. 日文      3. 英米      4. 心理      5. 社デ(現社) 6. 子ども 7. 栄養

科目名 \_\_\_\_\_

教員名 \_\_\_\_\_

質問 1 あなたの出席状況について、あてはまる番号を○で囲んでください。

4 毎回出席      3 ほとんど出席      2 半分程度出席      1 たまに出席

質問2から質問15(もしあれば質問17、18についても)まで、当てはまる選択肢ひとつを選んで○で囲んでください。  
質問9と質問10は、授業の性格によって当てはまらないことがあります。その場合、記入する必要はありません。

そ	や	あ	そ
う	や	ま	う
思	や	り	思
う	そ	そ	わ
	う	う	な
	思	思	い
	う	わ	

質問 2	私はこの授業に熱心に取り組んでいる。	4	3	2	1
質問 3	私は講義要綱(シラバス)をきちんと読んだ。	4	3	2	1
質問 4	私はこの授業の目的を理解している。	4	3	2	1
質問 5	担当教員は熱意を持って授業している。	4	3	2	1
質問 6	担当教員の話し方はわかりやすい。	4	3	2	1
質問 7	担当教員は授業時間を守っている。	4	3	2	1
質問 8	担当教員は授業に参加しやすい環境をつくっている。	4	3	2	1
質問 9	板書は分かりやすい。	4	3	2	1
質問 10	プリントや視聴覚教材が効果的に用いられている。	4	3	2	1
質問 11	授業は講義要綱(シラバス)に従って進行している。	4	3	2	1
質問 12	授業の内容は興味深い。	4	3	2	1
質問 13	授業の内容は理解しやすい。	4	3	2	1
質問 14	成績の評価基準が明瞭に示されている。	4	3	2	1
質問 15	この授業に満足している。	4	3	2	1

質問 16 この授業について意見・要望・希望・感想があれば、自由に書いてください。

質問 17	この授業だけの質問です。担当教員が板書などで示します。	4	3	2	1
質問 18	この授業だけの質問です。担当教員が板書などで示します。	4	3	2	1

ご協力ありがとうございました

# 授業についてのアンケート（レッスン）

相愛大学は、授業の改善のために授業評価アンケートを実施します。アンケートは授業の改善のためだけに利用されます。率直な回答をお願いします。

学年と専攻は○で囲んでください。科目名・教員名は記入してください。

学年 1年 2年 3年 4年 その他

専攻 1. 作曲 2. 音楽学 3. 音楽療法 4. 声楽 5. ピアノ 6. 創作演奏

7. オルガン 8. 木管楽器 9. 金管楽器 10. 弦楽器 11. 打楽器 12. 古楽器

科目名 \_\_\_\_\_

教員名 \_\_\_\_\_

質問 1 あなたの出席状況について、あてはまる番号を○で囲んでください。

4 毎回出席 3 ほとんど出席 2 半分程度出席 1 たまに出席

質問2から質問12まで、当てはまる選択肢ひとつを選んで○で囲んでください。

そ	や	あ	そ
う	や	ま	う
思	や	り	思
う	そ	そ	わ
	う	う	な
	思	思	い
	う	わ	

質問 2	私は遅刻をせずに出席している。	4	3	2	1
質問 3	私はレッスンに熱心に取り組んでいる。	4	3	2	1
質問 4	私はレッスンの準備(譜読み・練習等)を十分にしている。	4	3	2	1
質問 5	レッスンの進行は技術や理解度に合わせて適切である。	4	3	2	1
質問 6	レッスンの教材は自分にとって適切である。	4	3	2	1
質問 7	このレッスンで意欲が向上している。	4	3	2	1
質問 8	担当教員とのあいだに信頼関係ができています。	4	3	2	1
質問 9	担当教員の話し方や態度は適切である。	4	3	2	1
質問 10	担当教員の熱意や真剣さが感じられる。	4	3	2	1
質問 11	担当教員は授業回数や時間をきちんと守っている。	4	3	2	1
質問 12	担当教員は、休講に対する補講を適切に行っている。	4	3	2	1

質問 13 このレッスンについて意見・要望・希望・感想があれば、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました

授業アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎共通	音楽	日本文化	英米文化	人間心理	社会デザイン	発達栄養	子ども	留学生
問1	3.34	3.41	3.39	3.43	3.28	3.29	3.57	3.30	3.66
問2	3.21	3.48	3.36	3.54	3.08	3.21	3.37	3.22	3.84
問3	2.72	2.88	3.13	3.25	2.86	2.92	2.54	2.46	3.69
問4	3.21	3.47	3.40	3.69	3.16	3.17	3.23	3.13	3.88
問5	3.62	3.78	3.74	3.86	3.47	3.43	3.58	3.55	3.91
問6	3.40	3.61	3.50	3.78	3.13	3.21	3.32	3.20	3.94
問7	3.60	3.76	3.71	3.89	3.59	3.47	3.66	3.42	3.94
問8	3.41	3.62	3.59	3.79	3.28	3.28	3.44	3.23	3.93
問9	3.16	3.42	3.40	3.55	3.92	3.08	3.12	2.90	3.93
問10	3.38	3.63	3.48	3.75	3.25	3.36	3.36	3.24	3.88
問11	3.24	3.49	3.55	3.72	3.17	3.31	3.23	3.07	3.88
問12	3.29	3.57	3.41	3.74	3.33	3.22	3.29	3.19	3.79
問13	3.29	3.52	3.42	3.72	3.08	3.03	3.22	3.11	3.91
問14	3.28	3.42	3.50	3.70	3.17	3.19	3.29	3.09	3.90
問15	3.31	3.53	3.49	3.75	3.14	3.18	3.28	3.12	3.85
平均値	3.30	3.51	3.47	3.68	3.26	3.22	3.30	3.15	3.86

授業アンケート調査結果 グループ平均一覧

	音楽学科専攻	作曲専攻	声楽専攻	ピアノ専攻	創作演奏	管弦打	古楽器
問1	3.35	3.75	3.70	3.78	3.49	3.86	3.60
問2	3.66	3.88	3.87	3.90	3.67	3.94	3.67
問3	3.56	3.63	3.87	3.92	3.63	3.81	3.17
問4	2.90	3.50	3.45	3.35	3.04	3.34	2.67
問5	3.76	4.00	3.94	3.95	3.78	3.92	3.67
問6	3.75	4.00	3.94	3.95	3.76	3.95	3.83
問7	3.69	4.00	3.94	3.88	3.73	3.95	3.17
問8	3.68	4.00	3.97	3.85	3.63	3.81	3.83
問9	3.89	4.00	4.00	3.93	3.88	3.99	3.67
問10	3.87	4.00	3.97	3.95	3.94	3.99	3.67
問11	3.84	4.00	3.97	3.90	3.84	3.91	4.00
問12	3.78	4.00	3.94	4.00	3.84	3.89	3.67
平均値	3.64	3.90	3.88	3.86	3.69	3.86	3.55

## 授業評価アンケート結果の分析（基礎共通）

### 1、評価の特徴

#### 前年度との比較

全項目の平均が 3.30 で、これは昨年度と同じである。昨年度は全教員・全科目でのアンケート実施、今年度は各教員 1 科目（受講者最大クラス）だったが前年度と変わらないということは改善が進んだとは言えないだろう。昨年度最低の評価だったのが、問 3、シラバスをきちんと読んだかどうかを問う項目（2.65）だったが、今年度も 2.72 で最低である。多少は改善されたものの、やはり受講者はほとんどシラバスを読んでおらず、最初の授業でシラバスの徹底を図ることを粘り強く進めなくてはいけないと思われる。あるいはこの数字は学生が科目選択の際に、講義内容にほとんど注意を払っていない結果だと言えるかも知れない。

今年度一番高い評価を得ているのが問 5、教員は熱意をもって授業をしているである。（3.62）昨年度も問 5 は 3.62 でトップであり、本学教員が熱意をもって授業をしていることは学生に評価されている。ただし数字には変化がない。問 7、授業時間を守っているは、昨年度 3.62 で同率首位だったが、こちらは今年度 3.60 に落ちている。ただし、先生方のコメントを拝見すると、ほとんどの先生が授業時間を厳守しているのに学生の評価が伴っていないとして疑問を呈している。学生の誤解があるかも知れない。

前年度よりポイントが上がっているのは、問 3、4、10、11、12、13、14、下がっているのが問 1、2、7、8、同じなのが問 5、6、9、平均、である。その結果から見ると、学生の授業に対する意識と教員の授業改善の工夫（プリント、視聴覚教材など）が多少改善され、授業も理解しやすく、興味深いという反応が表れている。一方、学生の出席状況や取組みの姿勢が後退し、授業に参加しやすいという雰囲気は薄れているのは、学生の意欲と教員の姿勢の現実を反映しているのかも知れない。コメントにもあるが、今日の学生は視聴覚教材など多様な教授方法を用いての授業に慣れており、同じ内容を伝えるにも伝え方の工夫が求められ現状があり、そのような方向で工夫している授業は総じて高い評価が与えられている。またそのような工夫を心がけているというコメントも寄せられている。

#### 他部門との比較

昨年度のグループ平均は、人文の英米、音楽、日文、社会デザインに続いてほぼ中間的な位置にあったが、今年度もほとんど同様に英米、音楽、日文に続いて栄養と同率 4 位となっている。評価ポイントも昨年のもままであり、特に目覚ましく評価がよくなったとは言えない。共通教育は講義課目が多くを占めており、1 クラスあたりの受講生も相対的に多いので、なかなか一朝一夕に改善が進まないのかも知れない。



## 2、科目の区分や受講者数と評価との関連性

実技科目（スポーツ実習、音楽実技など）は概して評価が高い。これらの科目は内容そのものの楽しさや受講の効果を実感しやすいこともあり、高評価を得ているとも考えられる。一般的に受講者の多い講義科目は高い評価を受けにくいですが、仔細に見てみると受講者の多いクラスでも、担当者が視聴覚教材などを用いて学生の関心を引き付ける工夫をする、あるいは学生の関心をひきつけるような話題やテクニックを用いて、高い評価を得ているものもある。必修、選択あるいは資格科目であるか否かなどによる有意な評定値の差は認められない。むしろ同一科目で複数開講している場合にも、担当者によって評価の高低が認められるので、互いに授業見学をおこなったり、授業の方法に関する情報や意見の交換を行うなどして平準化、相互に高め合う努力が求められるのだろう。同一科目での複数開講クラスにおいて受講生数が極端にアンバランスなクラスがあり、担当者の努力で学生の不満を克服しているケースもあるが、これなどは大学側が改善を図るべきことがらであり、このような要望も散見されるので真摯に受け止めなければならない。

## 授業評価アンケート結果の分析（音楽学部 レッスン）

### 1、評価の特徴

昨年と比較すると全項目の平均が昨年より 0.03 下がり (3.64) となったが、おおむね高い評価だと言える。ポイントが下がった項目は質問 1、2、3、4、5、で質問 6 は前回と同数値。その他の項目はすべて上がった。まず質問 1《出席状況》が昨年 (3.56) 今回 (3.35) 質問 2《私は遅刻をせずに出席している》昨年 (3.75) 今回 (3.66) 質問 3《私はレッスンに熱心に取り組んでいる》昨年 (3.61) 今回 (3.56) でポイントが下がったとはいえ数値は (3.5) 以上あり、学生の学習態度が低下したとは言えない。ただ質問 3《レッスンに熱心に取り組んでいる》昨年 (3.79) 今回 (3.56) で質問 4《私はレッスンの準備を十分にしている》昨年 (3.10) 今回 (2.90) ということは、《レッスンに熱心に取り組んでいる》にもかかわらず《レッスンの準備を十分にしている》がそれほど高くないというわけで、このあたり学生自身の譜読み等の反省があるのではないだろうか。この項目は学生の勉学意欲と日々の努力の重要性を学生自身が自覚することに尽きる。ただ教員側の指導力と精神的サポートによって、学生自身の自覚を促すことは可能であるかもしれない。

質問 5《レッスンの進行は技術や理解度に合わせて適切である》昨年 (3.79) 今回 (3.76) 質問 6《レッスンの教材は自分にとって適切である》昨年 (3.75) 今回 (3.75) 質問 7《このレッスンで意欲が向上している》昨年 (3.64) 今回 (3.69) でこれらの項目も数値は高く、教員側の工夫と適確な指導がなされていると考えて良い。

質問 8《担当教員とのあいだに信頼関係ができています》昨年 (3.63) 今回 (3.68) 質問 9《担当教員の話し方や態度は適切である》昨年 (3.83) 今回 (3.89) 質問 10《担当教員の熱意や真剣さを感じられる》昨年 (3.82) 今回 (3.87) 質問 11《担当教員は授業回数や時間をきちんと守っている》昨年 (3.80) 今回 (3.84) 質問 12《担当教員は、休講に対する補講を適切に行っている》昨年 (3.77) 今回 (3.78) ですべて高い評価である。特に質問 9《教員の話し方や態度は適切》(3.89) で数値は高く、教員の学生に対する接し方は高く評価されている。専攻別では作曲専攻 (4.0) 声楽専攻 (4.0) ピアノ専攻 (3.93) 創作専攻 (3.88) 管弦打 (3.99) ときわめて高い。質問 10《教員の熱意や真剣さを感じられる》も (3.87) と高い数値である。専攻別では作曲専攻 (4.00) 声楽専攻 (3.97) ピアノ専攻 (3.95) 創作演奏 (3.94) 管弦打 (3.99) と高く、質問 11《教員は授業回数、時間をきちんと守る》(3.84) 質問 12《休講に対する補講が適切》(3.78) とともに高い評価となった。教員側の努力がうかがえる。

音楽学部の特徴としてマンツーマンの形態をとる個人レッスンは、教員と学生間の人間関係の在り方が評価となって反映される可能性がある事を考慮しなければならないが、今回もレッスンが高い数値を得た事は、現在の実技レッスンが学生の期待に応えていると考えて良いのではないだろうか。ただアンケート回収件数が少ない場合、一学生

の判断がそのまま反映され、平均化されず極端な数値結果となることもある。それをどう評価し判断するかは厳密には難しいところである。回収一名の学生の意見が事実であるとしても、複数回収の（4.0）と一回回収の（4.0）の数値のニュアンスが異なることもあり、複数回収の（3.8）が一回回収の（4.0）より実情は評価が高いという可能性もある。

副科実技と専攻実技のそれぞれのレッスンは学生にとって心構えが異なる。専門実技こそ音楽学科学生にとって最重要であり、副科レッスンに対する意識の差があるのは否定できない。教員側と学生側のそれぞれの意識も専攻実技レッスンと副科実技レッスンとは若干異なり、微妙な違いが数値となって表れる可能性がある。

## 2、考察

質問の答えに『そう思う』が4.0であり『ややそう思う』が3.0であるが、果たしてその数字上の差異がどの程度のものであるか、きわめて曖昧に思われる。しかし、『そう思う』と『ややそう思う』の曖昧さと、『複数回収』と『一回回収』の数値の内包する差があるとしても、統計上、同数値は同じと判断しなければならない。ただできる限り評価されるべき内容と数値の誤差を少なくするために、工夫を重ねていく必要があると思われる。

音楽学部レッスンの授業評価の際、より相応しい設問方法、文言等を考えることも今後の課題である。設問方法の例として、両極に置いた尺度を使い、その位置を記すSD法という心理学的測定法を試みるのも一つの方法かもしれない。

## 授業評価アンケート結果の分析(人文学部)

### 1、評価の特徴と考察

今回の結果を昨年の結果と比較することによって、昨年のアンケートのフィードバックが今回の結果に反映しているかどうかについて見てみたい。昨年は全てのクラスについてアンケートを行ったのに対して、今年はそれぞれの教員が担当科目の中で最も受講生の多いクラスを一つ選びアンケートを行うという形を取った。その意味で厳密な比較とはならないが、全体的な傾向は見て取れるであろう。

各学科の全問平均値を昨年と比べると、日本文化学科が 0.03、英米文化学科が 0.4 高くなったのに対して、人間心理学科は 0.02、社会デザイン学科が 0.12 下がっている。また評価平均値が上昇しているのは、日本文化学科では 15 問中 10 問、英米文化学科では 15 問中 14 問、人間心理学科では 15 問中 2 問、社会デザイン学科では 15 問中 3 問となっており、日本文化学科、英米文化学科と人間心理学科、社会デザイン学科の傾向が大きく分かれた。その理由として一つ考えられるのは、後者 2 学科においては問 2 (回答者の受講態度) の評価点が大きく下がっていることとの相関性である。すなわち、人間心理学科、社会デザイン学科では、今回アンケートに答えた学生の授業に対する取り組み方や意識の低さが、全般的な評価点の下降に影響しているのではないかと予想される。もちろん、そのことを学生のみ責任として捨てるわけにはいかない。教員の側としては、学生の受講態度を改善させるための様々な工夫を模索する必要があるだろう。

一方、問 3 (講義要綱をきちんと読んだか) はそうした全体的な傾向とは異なり、後者 2 学科、特に社会デザイン学科において大きく上昇している。人間心理学科、社会デザイン学科の数値が全体的に下降傾向にある中で、問 3 の評価点が上昇したということは、学生に講義要綱を読むように仕向けるという教員の側の意識的な働きかけが結果につながっていると理解して良いと思われる。

また、各問の中で、4 学科中 3 学科において上昇しているのが問 9 (板書は分かりやすい) で、特に人間心理学科については 0.85 の上昇となっている。日本文化学科においても問 9 が最も上昇率が大きかった。英米文化学科で昨年より大きく評価点が上がったのは問 10 (プリントや視聴覚教材が効果的に用いられている) であり、次に問 7 (担当教員は授業時間を守っている) と問 12 (授業の内容が興味深い) が同数値で続いている。問 9 (板書の分かりやすさ)、問 10 (プリントや視聴覚教材の効果的使用)、問 7 (授業時間の厳守) は、どれも教員の側の少しの工夫や心がけで改善できる部分である。担当者のリフレクションペーパーにもそれらのことを心がけたという記述が散見され、その点においては教員の側の取り組みが学生にも十分伝わっていたと考えることができる。

## 2、受講者数および科目の内容と評価の関連性

受講者数と評価の数値との関連を見てみると、概して少人数クラスの方が評価が高くなっている。また科目が講義科目であるか演習科目であるかによっても評価は大きく異なり、演習科目は比較的高い評価となる傾向にある。こうした傾向は、受講者数が少なければ少ないほど教員と学生の双方向的な授業がしやすくなるということ、逆に受講者数が多いほど、あるいは演習科目に比べて講義科目の方が、教員の側からの一方向的な授業が多くなりがちであることと、大いに関連しているのではないだろうか。近年、教員が一方向的に講義をするのではなく学生の発言の機会を増やす、あるいは学生同士で討論させるなどの、学生主導型、学生参加型の授業の有効性が指摘されている。受講者数が多い授業の中でそのような授業形態を取り入れることには困難を伴うが、それでもなお、クラスのサイズにかかわらず、何らかの形で学生の授業参加を促すような方法を考えることが大切ではないだろうか。先生方のコメントには、板書や補助教材に関する工夫についての言及が多かったのに比べ、学生との双方向的な授業を試みているという記述はあまり見られなかった。今後の課題の一つは、この点にあるのではないだろうか。

## 授業評価アンケート結果の分析 (人間発達学部)

### 1、評価の特徴

人間発達学部において発達栄養学科は、「栄養士」「管理栄養士国家資格受験資格」のために必要な科目を履修できるように、子ども発達学科は「保育士資格」「幼稚園教諭Ⅰ種免許状」「小学校教諭Ⅰ種免許状」が習得できるように編成されている。

この2学科の授業アンケート結果は、総合評価問15でみると発達栄養学科は3,28で子供発達学科は3,12である。項目別にみると問3「講義要項をきちんと読んだ」が他学部と比べても特に低く発達栄養学科は2,54、子ども発達学科は2,46であった。それに関連する問4「私はこの授業の目的を理解している」はそれぞれ3,23 3,13と低い結果となっている。これは、資格取得のための科目が多く学生が講義要項を読んで科目を選択する余地が少なく、講義内容に注意を払わないことと、自ら講義要項を選んでという意識が少ないと考えられる。今後履修指導時、並びに各授業で講義要項の説明、授業の目的や講義の進行について説明することにより、問4「授業の目的を理解している」は改善できると考える。

本年度と、昨年度の比較では昨年度は全科目、本年度は1科目ということで正確とはいえないが、前年度よりポイントが上がっているのは発達栄養学科では問1「出席状況」、問7「教官は授業時間を守っている」を除いて13項目である。子ども発達の場合は問3「講義要項をきちんと読んだ」、問5「教官は熱を持って授業している」、問11「授業は講義要項によって進行している」以外の項目はポイントが下がっている。

問13「授業の内容は理解しやすい」3,22、3,11 問15「この授業に満足している」の項目で点数が下回っている。原因としては、資格関連・国家試験受験のために教官はその範囲まで授業を進めていかねばならず、学生にとっては授業内容が理解しにくいいためではないかと考えられる。

問9「板書はわかりやすい」が低い評価となっているのは多様な視聴覚教材になれている学生には板書は理解しにくいのもかもしれない。伝え方に工夫をして理解力を上げたい。

評価の高い項目は両学科とも問5「担当教官は熱意を持って授業をしている」3,58、3,55、問7「担当教官は授業時間を守っている」3,66、3,42、問8「授業に参加しやすい環境を作っている」3,44、3,23で教員に対する評価があげられている。

問12「授業の内容は興味深い」はそれぞれ3,29、3,19であるが、問13の「内容は理解しにくい」となっている。これは今後の授業を進める上でのヒントとなろう。

評価を総合すると「熱意ある授業」「興味深い内容」、しかし「授業の内容は理解しにくい」ということになる。

## 2、考察

科目の区分で言うと、両学科ともに講義よりも演習、実習のほうが評価は高くなっている。実験・実習・演習ではレポート・ノート提出により点検、理解の不十分な点の補足などにより、内容や目的が理解できることと、教官とのコミュニケーションがとれることにより授業の理解度も高まっていると考えられる。

問6「担当教官の話し方はわかりやすい」 問9「板書」 問10「プリントや視聴覚教材」は教員の工夫とところがけで改善できる部分であり、伝え方に工夫をして学生の理解力を考えた授業展開が必要であると考え。学問に対する興味を理解につなげる授業の工夫をしていきたい。

両学科とも資格関連科目が多いので、興味はあるが理解しにくい授業の構図が見えてくるが、専門知識を身につけるには、国語を含めた語学、数学、科学などの基礎学力の充実が急務であると考え。

# 資 料



## 相愛大学 FD 委員会規程

### (設置)

第1条 相愛大学（以下「本学」という。）にFD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (目的)

第2条 本学教員の教育研究活動の向上と能力開発に関して恒常的に検討を行い、その質的充実を図ることを目的として、FDに関わる事項を審議する。

### (所管)

第3条 委員会は以下の事項を所管する。

- (1) FDの企画・立案に関すること
- (2) FDの実施計画と運営に関すること
- (3) FD活動に関わる情報の収集と提供
- (4) FDに関する広報活動
- (5) その他FDに関する事項

### (構成)

第4条 委員会は次の者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 自己点検副委員長
- (3) 教務部長
- (4) 各学部より選出された自己点検委員1名
- (5) 共通教育センター選出の自己点検委員1名
- (6) 教務事務部長
- (7) 学生事務部長
- (8) その他学長が必要と認めた者若干名

### (委員長)

第5条 委員会を統括するために委員長を置く。

- 2 委員長は委員の中から学長が任命する。
- 3 委員長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 委員長は必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

(任期)

第6条 前々条の委員の任期は次の通りとする。

- (1) 前々条第1号、2号、3号、6号、7号の委員の任期はその在任中とする。
- (2) 前々条第4号、5号、8号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(事務の所管)

第7条 委員会の事務は教務課が所管する。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は大学評議会の議を経て学長が行う。

附則 この規程は平成20年7月17日より施行する。

2010年6月15日

教員各位

相愛大学 FD 委員会  
委員長 山下 昇

## 学生による授業評価アンケートの実施について

先生方には平素は本学の教育のためにご尽力いただきありがとうございます。本学では新たな形式の授業評価アンケートを昨年度より実施し、その結果を分析して冊子等にまとめて公開するなどして、組織的な授業改善に努めております。今年度は一部方式を改め、下記の要領で実施することになりました。先生方のご協力に感謝申しあげるとともに、本年度もよろしくご理解・ご協力を賜りたく存じます。

1、目的：昨年度からの改善が進んでいるかどうかを検証する。

2、実施時期：7月5日（月）～10日（土）

※この期間に実施できなかったクラスは12（月）～17（土）に追加で実施します。

3、対象クラス：各教員の担当授業のうち受講者数の一番多い1クラス

※音楽のレッスンのアンケートは後期（10月頃）に行います。

4、アンケートの設問は15項目、および自由記述で成り立っています。また2問以内で担当者が独自の設問を設定することも可能です。アンケート配布は科目担当教員が授業終了10分前におこない、回収後直ちに封をして教務課に持参していただくか、回収、持参を学生に依頼してください。

5、後期授業開始時までにはアンケートの処理を済ませ、アンケート集計結果を各担当者に返却します。返却されたアンケート結果に対する意見及び改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを所定の日時までには作成してください。（詳細はアンケート返却時にお知らせします。）

6、FD委員会は学部・学科別、学年別、科目別、教員別などの集計や分析を行い、その結果を学長、学部長に報告し、教学の改善に活用いたします。

7、FD委員会は、分析結果と授業評価結果を含むリフレクション・ペーパーを集めて冊子を作るとともに、学内閲覧用にホームページ等に掲載します。

実施手順は下記の要領です。ご出校日に教務課にてアンケート用紙を受け取っていただき、授業時間内で実施をお願い致します。

◎ 実施期間 7月5日(月)～7月10日(土)

◎ 実施手順フローチャート

先生方をお願い致す部分

教務課にて用紙及び回収用封筒をお受け取り下さい



授業終了前に用紙を配布していただき、学生に記入させて下さい



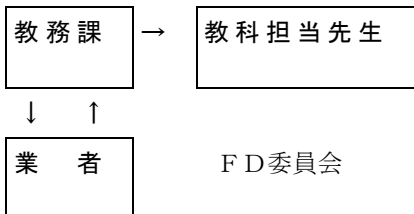
封筒に回収していただき、その場で封をお願い致します



お手数ですが、授業終了後に、教務課へ封筒をご返却下さい



以後のデータの流れ



ご注意

過去の事例から、回収後に先生方がアンケート内容をご覧になっているケースが見受けられます。

アンケートの公正を保つため回収後は速やかに封入下さいますようお願い致します。

2010年6月15日

学生の皆さんへ

授業評価アンケート実施についてのお願い

相愛大学FD委員会  
委員長 山下 昇

本学では、いま開講されている授業について、学生の皆さんが、どのように感じているか、どのような意見を持っているのかについて、アンケートを実施しています。その結果を今後の授業の内容や方法のなかに取り入れ、教員、学生が一体となって、よりよい大学教育を目指して行きたいと思っています。ご協力をお願いします。

(※音楽のレッスンについては後期に別に実施します。)

#### アンケート実施の方法

1. アンケートは、7月5日(月)から10日(土)までの1週間(この期間に実施できなかったクラスは12日から17日)に、各授業時間中に実施します。授業時間中に、その授業についてのアンケート記入を行います。
2. アンケートは、すべて無記名方式です。
3. アンケートは、15の設問と、意見自由記述の簡単なものです。またクラスによっては教員が独自に設定した設問が2問以内で問われる場合があります。
4. アンケートは、教員が授業時に用紙を配布しますので、その場で記入して下さい。
5. アンケートはその場で回収され、封入します。封入のまま、学外の専門業者に集計を依頼します。
6. 授業ごとに、アンケート結果を集計し、平均点を担当の教員に報告して、今後の授業の参考にしていただきます。先生方には集計結果についてのリフレクション・ペーパーを作成していただき、授業の具体的な改善方法などを提示してもらい、後日冊子にまとめると共にホームページにも掲載する予定です。
7. アンケート結果を大学FD委員会で分析し、組織的な授業改善の資料とします。

学生の皆さんのアンケート結果は、誰がどの様に回答したかは、わからないように工夫しておりますので、率直に回答して下さいをお願いします。